



三つの毒

柳 幹 康

前回見たように白隠によれば、我々はみな仏の心を具えておりながら、それを見失い煩惱に覆われ、苦しみの世界を輪廻しています。煩惱とは苦の原因となる汚れた心の働きであり、その根本的なものに貪・瞋・癡の三毒（三種の毒）があるとされます。今回はこの三毒に関する白隠の言葉を見てまいります。

第一の貪とは貪欲、貪りのことです。私たちは自分の勝手な基準によって物事の好悪を判断し、好ましいものを絶えず求め続け、止まることがありません。これを「獼猴心」（獼猴の心）と称します。なぜなら「あたかも獼猴が果実を貪り求めて枝から枝へと飛び移るがごとく、（あれこれ求めて）一瞬たりとも休まる時がない」からです（『寒山詩闡提記』卷二）。白隠は言います、「おのおの富貴で持つ宝、あればあるほど足らぬもの。無くて足掻くは是非もなや、有って足掻くは浅ましや」——必要なものを求めるのは仕方がな

いことだが、暴走した欲望に振り回されて足掻き苦しむのであれば、何とも浅ましいことではないか——と、こう戒めているのです（『施行歌』）。

第二の瞋とは瞋恚、怒りのことです。私たちは自分にとって都合が悪いものに対し、怒りを覚えますが、それは実は我が身を損なう恐ろしい業火になるのだと白隠はいいいます。白隠は有縁の人々の争いを解くため、次のような話を手紙に記しています。

お経にも「一念でも瞋の火を起こせば、これまで積んできた善行の功德が全て焼き尽くされてしまう」とございます。昔、比叡山の高僧は、うずたかく積まれた『法華経』から突然火が出て、一気に燃え上がるのを夢に見ました。その際、傍らに立っていた老僧がこう告げたそうです。「これはあなたが四十年間読み続け

てきたお経です。それがたった一念の瞋の火によって、かくも無残に焼き尽くされてしまうのです」と。

（『親類の不和合を諫める
「依田氏に与う」取意

怒りは自分自身を害するものなのだから、重々気をつけるように、ということですよ。

第三の癡とは愚癡、愚かさのことです。一口に愚かさと言っても様々なものがあります。白隠が最も問題視するのが輪廻に対する不信です。以下のように言います。

「……人は死ねば灯の火が消えるよう（に何も残りはしない）、一体どんな天堂や地獄があるというのだ」——これは「断見」の外道の見方であり、恐るべき邪見である。これより愚かなことはない。

（『刃訶以知吾』巻下）

「断見」とは輪廻を否定する——人は死ねばそれで終りと断ずる——見方であり、古來仏教では邪見（邪悪な見解）として斥けられます。白隱はその流れを承けつつ、「これより愚かなことはない」と断言しており、同様の批判はその著作に数多く見えます。白隱がかくも厳しく「断見」を斥ける理由、それは輪廻に対する恐れこそが仏道修行の入り口になるという理解にあります。白隱は以下のうに言います。

因果を信じ、（悪業による）苦しみの報いを恐れること——これを仏教では大いなる智慧とし、己が本性たる（仏の）心を看取せし者を賢聖仏祖と称するのである。……そもそも人を万物の靈長と尊び、余他の動物と区別する理由は、（人のみが）輪廻・来世を信じ、苦の報いを恐れるからなのだ。（『隻手音声（薺柑子）』）

「死ねば終わり」と思うのであれば、それまで露見しなければ何をやってもよいという邪な考えも出てくるでしょう。それに対し、「たとえこの生を終えた後であっても、己が行為の報いからは逃れ得ぬ」と観念するのであれば、自ずと行動を慎み、より善い生を送ることができるといふわけです。

では白隱の考える善い生とはどのようなものなのでしょうか。次回はその実践の体系について見てみます。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・准教授。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ペ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。



〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花 園】第69巻 第9号(通巻第817号)
令和元年9月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
- 【発行人】栗原正雄
【編集人】畠中寿浩
【印刷人】喜田眞司
- 【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵

「笑うにも泣くにも顔はひとつ」



笑うことができるのは人間だけ。
笑うことは生きていくのに
欠かせないもの。 絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。